

第46回土木史研究発表会

1. 主催 土木学会(担当:土木史委員会 <http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm>)
2. 期日 2026(令和8)年6月27日(土)・28日(日)
3. 会場 熊本大学 理学部本館 (熊本県熊本市黒髪2丁目39(黒髪南地区))
4. 参加方法
ハイブリッド開催(発表者は原則として対面ですがオンラインも可)
5. 参加費
 - ① 参加費(講演集PDF配信込み):一般6,000円、学生:3,000円
※ 第46回土木史研究発表会 総合案内ページより参加申込み手続きをお願いいたします。
 - ② 『土木史研究講演集 Vol.46』講演集のみ購入:PDF3,000円、オンデマンド印刷:実費 (事務局にお問い合わせください)
 - ③ シンポジウムへの参加は無料です。
※ 土木史委員会のHPをご参照のうえ、6月22日(月)までに事前の参加申込みをお済ませください。【①②③共通】の申込み窓口「本部主催行事の参加申込」 <http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>

※懇親会を開催予定です。

- 1)日 時:2026(令和8)年6月27日(土) 18:30~20:00
- 2)会場:熊本大学 TKU×マイスティア カフェテリア(生協食堂)
- 3)参加費:一般4,000円、学生1,000円(予定)
- 4)参加方法:当日の研究発表会会場受付で申し受けます。

6. シンポジウム

◇令和8年度土木史研究発表会シンポジウム「災害からの復興と土木史」(主催:土木学会土木史委員会)

2026年6月、2016年4月に震度7の強震に二度襲われた熊本地震から10年が経ち、2020年7月に球磨川流域などが被災した令和2年7月豪雨災害から6年が経った。また、昨年8月には熊本県内の複数箇所が豪雨災害に見舞われ、高齢社会における激甚災害はあとを絶たない。本シンポジウムでは、地震や風水害、さまざまな災害からの復興における「土木」のあり方、永く地域の暮らしを支えてきたインフラ・マネジメント、息の長い地域との向き合い方について、参加者の皆様とディスカッションしたい。

- 1)日 時:2026(令和8)年6月27日(土) 16:30~18:00
- 2)会場:熊本大学 工学部百周年記念館
- 3)参加費:無料
- 4)プログラム:事例報告・パネルディスカッション
モデレーター:田中尚人(熊本大学准教授/土木学会土木史委員会 委員長)
・星野裕司さん(熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授)
・矢野和之さん(株式会社文化財保存計画協会 代表取締役/ICOMOS JAPAN事務局長)
・林 倫子さん(関西大学准教授/土木学会土木史委員会 幹事長)

7. エクスカーション

◇見学会「国宝通潤橋をめぐる」(主催:土木学会土木史委員会)

- 1)日 時:2026(令和8)年6月26日(金) 13:00 市民会館前集合 18:00 同地で解散予定
- 2)見学場所:マイクロバスにて、国宝通潤橋を見学します
- 3)定員:20名(予定)
- 4)参加費:一般 未定
- 5)申込方法:詳細が決まりましたら、土木史委員会のHPにてご案内します。

8. プログラム

◆6月27日(土)

発表15分／質疑10分

時間	熊本大学 理学部本館(黒髪南地区) 1階 C122
8:45	開会挨拶 土木史委員会委員長 田中 尚人
9:00	【水との付き合い①(企画セッション)】 司会:星野 祐司(熊本大学)
	1 釜無川と御勤使川の伝統的流域治水における明治40年水害による変容に関する研究★
1	永見 怜輝(日本大学大学院)・知野 泰明
	2 洪水と特産品の関係性に見る洪水常襲地域における農業のあり方★
9	荒金 龍之介(国土交通省)・真田 純子
	3 空海によるため池整備の背景に関する考察 ～満濃池と益田池を例に★
17	西山 健一((株)イー・エー・ユー)・高木 舞人・篠原 修
	4 高解像度DTMを用いたマハウェリ川下流域の旧河道・自然堤防・閉鎖性凹地の検討★
25	鈴木 慎也(国土館大学)
	5 Water Control in Modern Japan as "Pidgin Knowledge": Continuities of Traditional Technologies such as Jakago ★
11:05	29 JACOBY Julia Mariko(一橋大学)
11:15	【水との付き合い②(企画セッション)】 司会:知野 泰明(日本大学)
	6 近代河川改修以前の姉川・草野川堤防の変容要因 - 沿川集落との関わりに着目して-★
35	土屋 諒太郎(関電不動産開発(株))・林 倫子
	7 淀川水系の河川堤外地における農業生産と洪水との関係★
47	林 倫子(関西大学)・松下 葉
	8 津屋川片側堤防の多面的機能に関する考察★
57	寺村 淳(大正大学)
	9 地形および土地利用に着目した十勝川水系の霞堤群計画時の検討要素の分析★
65	松山 聡一郎(関西大学大学院)・林 倫子・榎本 碧・岩田 圭佑・寺村 淳
	10 空石乱積み擁壁の強度基準策定に向けた模型実験による基礎的検討
13:20	77 末永 幸大(国土交通省)・千々和 伸浩・真田 純子
14:20	【熊本地震10年と災害(企画セッション)】 司会:竹内 裕希子(熊本大学)
	11 立山砂防関係資料の電子化の取組みについて
83	小川 紀一郎(アジア航測(株))・土居 洋子・高瀬 慎之介・島田 修一・染谷 哲久・山口 悠
	12 振動計測に基づく築石の接触状態の評価手法に関する検討
91	杉本 知史(長崎大学)・針本 皓平
	13 橋梁耐震設計基準の変遷と熊本地震における被害事例
99	松永 昭吾((株)インフラ・ラボ)
	14 阿蘇カルデラ地域の自然災害伝承碑について★
16:00	101 森 菜々美((株)建設プロジェクトセンター)・春日 隆佑・竹田 宏司
16:30	シンポジウム／講演会 会場:工学部百周年記念館
	●シンポジウム「災害からの復興と土木史」 星野 祐司(熊本大学), 矢野 和之 (ICOMOS JAPAN事務局長), 林 倫子(関西大学), 司会: 田中 尚人(熊本大学)

時間	熊本大学 理学部本館(黒髪南地区) 2階 C226
9:00	【選奨土木遺産(企画セッション)】 司会:佐々木 葉(早稲田大学)
	15 土木学会選奨土木遺産と北海道開発の沿革 -北海道支部による選考と今後の展望-
107	原口 征人(一社)北海道開発技術センター)・榎本 碧・岡田 正之・今 尚之
	16 中部における選奨土木遺産選考の特徴 -近世・戦後・システム・地域固有性の視点-
111	川口 暢子(愛知工業大学)・中村 晋一郎・出村 嘉史
	17 関西支部における選奨土木遺産の評価基準 -「事業」と「構造物」のはざまで-★
119	林 倫子(関西大学)
	18 土木学会西部支部における選奨土木遺産の認定状況と評価の傾向について
125	本田 泰寛(第一工科大学)
	19 北陸4県の土木学会選奨土木遺産を対象とした価値評価指標の再検討の試み
11:05	129 小澤 広直(長岡工業高等専門学校)
11:15	【土木遺産の保存・活用①(企画セッション)】 司会:永村 景子(日本大学)
	20 近世最大の砂防施設群「別所砂留」(第九報) -使用された石材とその採石地-★
133	樋口 輝久(岡山大学)・久都内 滉
	21 選奨土木遺産「瀬詰橋」と吉野川の治水について
137	武市 修一(一社)四国クリエイト協会)
	22 移設復元された木コンクリート橋の歴史的価値の評価に関する研究★
149	榎本 碧(寒地土木研究所)・岩田 圭佑・原口 征人
	23 道路を対象とした土木遺産評価の視点に関する一考察 -国道3号薩摩街道を例に-
153	多田隈 由紀((株)建設技術研究所)・高橋 裕美・和泉 大作・田中 慎一郎
	24 先端技術の適用による土木遺産の活用に関する研究★
13:20	157 岩上 怜仁(熊本大学大学院)・田中 尚人
14:20	【交通】 司会:岩田 圭佑(寒地土木研究所)
	25 地方都市における郊外拠点の形成過程に関する研究 -戦前期南宇都宮駅周辺を事例として-★
167	寺島 英紀(宇都宮大学大学院)・中川 嵩章
	26 近代佐原における交通体系の再編と産業構造の変化 -舟運と鉄道の機能分担に着目して-★
175	岸本 真彩(法政大学)・佐瀬 優子・福井 恒明
	27 茨城県を対象とした市民による道路維持管理活動に関する研究
183	横澤 直人(土木研究所)・渡邊 一弘
	28 明治期の長距離道路輸送について -輸送拠点からの考察-★
16:00	195 平井 節生(セントラルコンサルタンツ(株))・羽藤 英二

★ 土木学会論文集へ投稿予定の発表

◆6月28日(日)

発表15分／質疑10分

時間	熊本大学 理学部本館(黒髪南地区) 1階 C122	時間	熊本大学 理学部本館(黒髪南地区) 2階 C226
8:30	<p>【人物と技術史】 司会:中川 嵩章(東京科学大学)</p> <p>29 地方庁で河川改修の技術指針を策定した土木技師たち</p> <p>207 松島 吉信</p> <p>30 八田真一技師による戦時中の海南島調査</p> <p>215 武長 玄次郎(木更津工業高等専門学校)</p> <p>31 台湾総督府職員録に基づく台湾総督府の土木・建築分野の技師配置</p> <p>217 高柳 誠也(東京理科大学)</p> <p>32 大正三年 立山砂防の転換と土木技術者 池田圓男、黒磯利助、間崎則賢</p> <p>223 白井 芳樹・是松 慧美</p> <p>33 没後100年の太田圓三の設計体制に於ける「橋の会」と「近代建築運動」★</p> <p>10:35 227 永井 千皓(日本大学大学院)・関 文夫</p>	<p>8:30</p> <p>【土木遺産の保存・活用②(企画セッション)】 司会:原口 征人((一社)北海道開発技術センター)</p> <p>43 文化財保存活用地域計画に位置付けられた歴史的土木施設の特徴分析★</p> <p>307 小谷 圭吾(大阪工業大学大学院)・木村 優介</p> <p>44 大正期鋼トラス橋の保存と耐震補強及び補修 一駒沢給水所配水塔管理橋の事例一</p> <p>313 福岡 雅俊((株)オリエンタルコンサルタンツ)・坂東 駿哉・吉川 聡平・久木留 貴裕・大竹 省吾・澤井 公哉・審良 郁夫・青木 康徳・濃添 泰成・堀田 優美</p> <p>45 『土木遺産な旅のスヌメ』の制作過程にみる土木遺産活用の考え方</p> <p>325 高橋 裕美((株)建設技術研究所)・多田隈 由紀・和泉 大作・田中 慎一郎</p> <p>46 晴海・豊洲地区の開発の歴史と東京都港湾局専用線晴海鉄道橋</p> <p>331 大波 修二((株)オリエンタルコンサルタンツ)</p> <p>47 旧晴海鉄道橋(晴海橋りょう)の遊歩道化設計</p> <p>10:35 337 杉山 達彦((株)オリエンタルコンサルタンツ)・大波 修二・上野 淳人・岡村 希望・金 東熙・桐原 涼</p>	
10:45	<p>【都市計画史】 司会:真田 純子(東京科学大学)</p> <p>34 九州地方における第二次世界大戦中の工業都市計画の展開</p> <p>235 大森 文彦(東京科学大学)</p> <p>35 帝都復興小公園の告示以降の計画変更経緯と敷地決定に関する計画主体ごとの意図の差異★</p> <p>245 中川 恵(東京大学)</p> <p>36 『新聞集成明治編年史』にみる 道路および鉄道に関する記事の特徴 一明治元(1868)年から明治14(1881)年を対象として一★</p> <p>251 西山 孝樹(日本大学)・伊藤 嘉一郎・藤田 龍之</p> <p>37 近代京都における鴨川の橋梁設計と景観形成★</p> <p>261 谷川 陸(京都大学)・山口 敬太・川崎 雅史</p> <p>12:50</p>	<p>10:45</p> <p>【土木遺産の持つ多様な価値】 司会:福井 恒明(法政大学)</p> <p>48 築造時における菊池川流域の古風景観特性に関する研究</p> <p>345 瀧川 紗夜香(熊本大学大学院)・星野 裕司</p> <p>49 平和学習にみる戦争遺跡の役割に関する研究</p> <p>357 山口 雄大(熊本大学大学院)・田中 尚人</p> <p>50 千葉県富里市の谷津における記憶遺産プロジェクトの適用可能性</p> <p>369 戸田 祐希(日本大学大学院)・永村 景子・増田 大志</p> <p>51 国内類似路線との比較による肥薩線の技術的・地理的特徴に関する研究</p> <p>373 崔 静妍((株)文化財保存計画協会)・丹羽 温子・小笠原 浩幸・成川 健斗</p> <p>52 維持管理実務につながる橋への想いの伝承 ～港大橋開通50年の事例～</p> <p>12:50 383 熊澤 美早(阪神高速道路(株))・杉山 裕樹</p>	
13:50	<p>【土木史一般】 司会:山尾 敏孝(熊本大学)</p> <p>38 「土木」という言葉… (2) 一「土木」とはなにか(考察)一</p> <p>271 松井 良太郎</p> <p>39 和歌山県本宮町の各集落における水害被害と対策の歴史★</p> <p>279 落合 知帆(京都大学)</p> <p>40 織豊時代の橋について</p> <p>285 松村 博</p> <p>41 大和郡山城下町における武家地の区画構成と設計原理</p> <p>293 田中 滋夫((株)都市デザイン)・長嶋 秀和・阿部 貴弘・伊藤 毅・篠原 修</p> <p>42 城下町大和郡山における町人地の設計論理★</p> <p>15:55 301 長嶋 秀和((株)東京建設コンサルタント)・田中 滋夫・阿部 貴弘・伊藤 毅・篠原 修</p>	<p>13:50</p> <p>【港湾】 司会:秀島 栄三(名古屋工業大学)</p> <p>53 明治時代における地元資本による 地方港湾整備と内務省直轄工事の比較</p> <p>389 大森 文彦(東京科学大学)</p> <p>54 勝山の舟着場 一その実態と価値評価一★</p> <p>399 樋口 輝久(岡山大学)・原田 幸奈</p> <p>55 東京築港着手を果たし、田村興吉は港湾の技術指導者に</p> <p>405 手島 道人(NPO首都東京みなと創り研究会)・寺中 敬一郎</p> <p>56 国際港湾協会中央事務局長としての松本学 一戦後日本の国際協力の一事例として</p> <p>417 稲吉 晃(新潟大学)</p> <p>57 長崎港湾計画の通時的分析からみた港湾計画の計画論的特徴★</p> <p>15:55 423 石橋 知也(長崎大学)・山下 颯太</p>	
16:05	若手優秀講演表彰 土木史委員会発表小委員会	★ 土木学会論文集へ投稿予定の発表	
16:25	総括および閉会挨拶 土木史委員会発表小委員会委員長 樋口 輝久		